

中医学による問診


中医学では、問診・望診・聞診・切診の4つの診察方法により必要な情報を得て、治療方針を決定します。これを四診といいます。

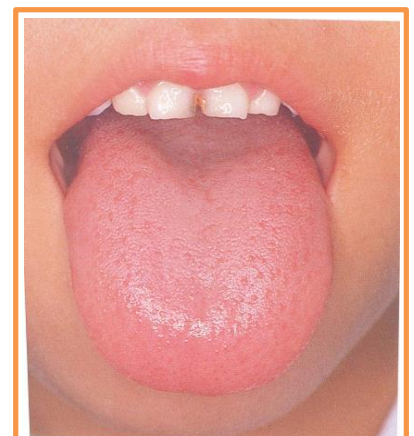
【問診】 中医学では現代医学のようにこまかく科を分けて診ることがなく、体一つが全てつながっており、精神疲労・体内の活力エネルギーなどのアンバランスによって病を引き起こすと考えています。そのため、症状とは全く関係のなさそうな事を聞く場合もありますが、これは検査などのデータではなく体の反応や症状に重点を置いて問診を行っているからです。

【望診】 全身状態・局所状態・舌などを観察します。特に舌診は重要です。舌の色・乾燥度・舌の苔などの所見により、臓腑の病変を知ることができ、病気の程度、寒熱の判断や回復具合の指標となります。例えば、舌が紅いと熱をもっていたり、白っぽいと体を温める力が不足しているなどがあります。

【聞診】 声・語気・呼吸などを聴き、体から発するにおいを嗅ぐことで、身体の状態を診ていきます。

【切診】 体表を触ることで病状を理解します。脈診、按診（経穴診・腹診）をいいます。脈診とは、橈骨動脈をとることで病態を診ていきます。脈の数、位置、強さなど脈を何種類にも分類し、体力や病気の性質、回復具合を判断します。例えば、カゼを引いていると軽く触れるだけで脈を感じたり、寒さを強く感じていると脈が硬くなったりします。

望診	身体の形態・顔色の変化 舌・爪の様子など 患者様の状態を診ます。		どこがづらいのか、 痛むのかお聞きします。 既往症・主訴を質問します。 体調の変化も お伺いします。 質問形式で患者様の 状態を把握します。	問診
	患者様の声色、 呼吸を診ます。 嘔吐や臭気がないか確認します。		脈をとります。 身体・手足の 寒・熱を診ます。 背中の経穴の反応を診ます。 腹部の緊張状態を調べます。	



正常な舌象
淡紅舌・薄白苔

